

平成28年度 当初予算

問い合わせ先
財政課財政係 ☎ (22) 2111 (内線221)

事業の目的や効果を厳しく見極め、市民との情報の共有・連携・協働により、元気な中野市の実現に向けた予算編成としました。

一般会計
予算額

221億2,600万円

前年度比 18億7,100万円の増(109.2%)

一般会計の予算規模は、総額221億2,600万円で、平成27年度当初予算比較では、金額にして18億7,100万円、率にして9.2%の増となりました。

平成28年度は、第2次中野市総合計画前期基本計画の初年度であるとともに、中野市まち・ひと・しごと創生総合戦略事業が2年目を迎える重要な年であることから、将来の中野市を見据え、地域の実情に合った市民生活に直結する各種施策を、より効率的かつ効果的に展開していく必要があります。

そのため、新年度予算は、市民の安心した生活を支えるため、ハード・ソフトの両面から各種施策を実施し、人口減少・少子化対策として移住・定住促進を図る各種事業のほか、より手厚い子育て、保育環境の充実など、未来への礎となる予算としました。

本市における財政状況は、厳しい状況に変わりありませんが、引き続き最小の経費で最大の効果を上げる地方自治の理念に基づき予算を執行するとともに、効果的かつ効率的な財政運営に努めてまいります。

「緑豊かなふるさと 文化が香る元気なまち」に向けた6つの柱

総合計画の施策に掲げた次の6項目をもとに、事業の重点化を図ります。

- 1 未来のふるさとを担う子どもたちを育むまちづくり


- 2 支えあい健やかに暮らせる健康長寿のまちづくり


- 3 にぎわいと活力あふれるまちづくり

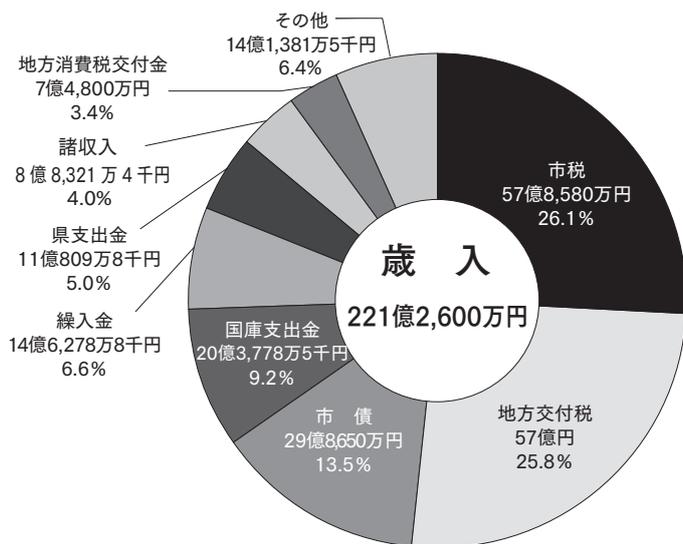

- 4 ふるさとを学び育つ文化のまちづくり


- 5 安心・安全な住みよいまちづくり


- 6 市民参加と協働のまちづくり



歳入の主な特徴



◇市税は、給与所得の伸びによる個人市民税や、大型施設建設による固定資産税および都市計画税の増などにより、4億7,700万円余円の増額を見込んでいます。

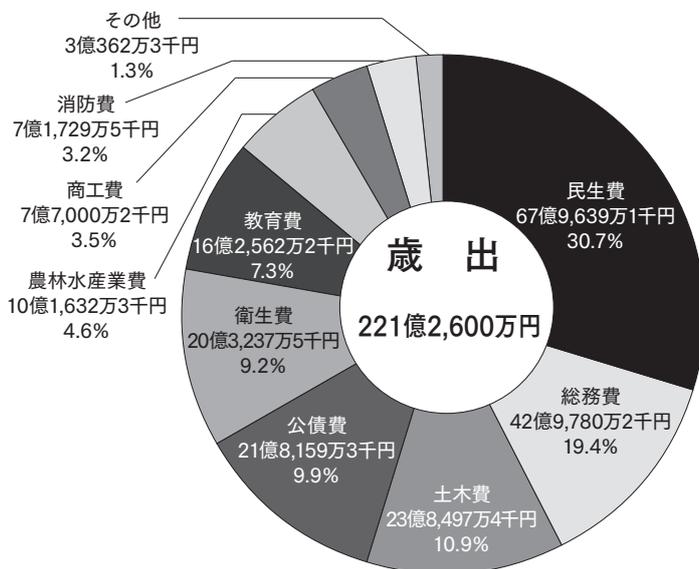
◇繰入金については、ふるさと寄附金の増による、ふるさと振興基金からの繰入金の増などにより、前年度比5億3,400万円余円の増額を見込んでいます。

◇その他に含まれる寄附金については、ふるさと寄附金の増などにより、前年度比2億4,300万円余円の増額を見込んでいます。

歳出の主な特徴

◇総務費は、新庁舎の建設工事開始に伴う新市庁舎整備事業費の増（4,332万円余円⇒10億3,959万円余円）や、ふるさと寄附金の増に伴うふるさと振興基金積立金の増（3,660万円余円⇒2億8,023万円余円）、多目的防災広場整備事業費の増（2億6,150万円 皆増）、防災行政無線デジタル化整備事業費の増（1,500万円⇒2億1,094万円余円）などに伴い、前年度比で約17億2千万円の増額となります。

◇衛生費は、新斎場建設に伴う北信保健衛生施設組合分担金や、北信総合病院再構築事業費が減ったことにより、前年度比で約4億6千万円の減額となります。



会計別予算額

一般会計は、市が行う事業の大部分を占め、市民の皆さんから納付していただく市税や、国、県からの交付金などが主な財源となります。

これに対して特別会計は、特定の事業を行うための予算で、主に保険料や使用料などの収入で賄われています。

また、企業会計は、事業で得る収入によって支出を賄う独立採算型の会計となります。

会計名	予算額	前年比	
一般会計	221億2,600万円	9.2%	
特別会計	国民健康保険事業	61億2,152万1千円	1.2%
	後期高齢者医療事業	4億5,699万円	6.8%
	介護保険事業	43億7,946万2千円	3.6%
	倭財産区事業	62万8千円	3.5%
	永田財産区事業	40万8千円	5.4%
	中野財産区事業	188万1千円	△2.8%
	下水道事業	—	皆減
	農業集落排水事業	—	皆減
計	109億6,089万円	△17.2%	
企業会計	下水道事業	41億1,855万2千円	皆増
	水道事業	16億5,662万6千円	1.6%